

「JENESYS2.0」

2015年度中国高校生訪日団第5陣Bコース

訪問日程 2015年11月24日（火）～12月2日（水）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した2015年度中国高校生訪日団第5陣Bコース計124名が、11月24日から12月2日までの8泊9日の日程で来日しました（団長＝倪清貴（ニー チン グイ）、甘肅省教育庁基礎教育二処副処長）。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、日本各地を訪問し、社会福祉に関する視察を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、学校交流や、ホームビジット等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

11月24日（火）

羽田国際空港より入国

11月25日（水）

オリエンテーション

セミナー「グラスルーツ推進（生涯スポーツ）への取り組み」

東芝未来科学館視察

歓迎会

11月26日（木）

第1・2分団：兵庫県へ移動、しあわせの村視察、商業施設視察

第3分団：大阪府へ移動、ATCエイジレスセンター視察

第4分団：徳島県へ移動、障害者支援施設 社会福祉法人 仁栄会『春叢園』視察、阿波おどり会館視察

11月27日（金）

第1・2分団：須磨学園高等学校訪問・交流

第3分団：兵庫県立北摂三田高等学校訪問・交流

第4分団：藍の館・藍染め体験、徳島県立徳島北高等学校訪問・交流

11月28日（土）

第1・2分団：ホームビジット

第3分団：大阪くらしの今昔館参観、檀原の郷視察、農家民泊

第4分団：ホームステイ

11月29日（日）

第1分団：神奈川県へ移動、カップヌードルミュージアム参観

第2分団：群馬県へ移動、卯三郎こけし こけし絵付け体験

第3分団：東大寺参観、大阪城参観、商業施設視察

第4分団：兵庫県へ移動、商業施設視察

11月30日（月）

第1分団：横浜市立南高等学校訪問・交流

第2分団：群馬県立利根実業高等学校訪問・交流

第3分団：奈良県立平城高等学校訪問・交流

第4分団：兵庫県立伊川谷高等学校訪問・交流

ワークショップ

12月1日（火）

第1・2分団：東京都へ移動、皇居参観

第3・4分団：東京都へ移動

大学訪問（明治大学）

歓送報告会

12月2日（水）

羽田国際空港より出国

3 写真

	
<p>11月25日 東芝未来科学館視察（東京都）</p>	<p>11月25日 歓迎会（東京都）</p>
<p>11月25日 東芝未来科学館視察（東京都）</p>	<p>11月25日 歓迎会（東京都）</p>
	
<p>11月25日 歓迎会（東京都）</p>	<p>11月26日 しあわせの村視察（兵庫県）</p>
<p>11月25日 歓迎会（東京都）</p>	<p>11月26日 幸福村視察（兵庫県）</p>
	
<p>11月26日 しあわせの村視察（兵庫県）</p>	<p>11月26日 ATC エイジレスセンター視察（大阪府）</p>
<p>11月26日 幸福村視察（兵庫県）</p>	<p>11月26日 ATC 忘年中心視察（大阪府）</p>



11月26日 障害者支援施設 社会福祉法人 仁栄会『春叢園』視察（徳島県）



11月26日 阿波おどり会館視察（徳島県）

11月26日 残疾人支援施設 社会福祉法人 仁栄会『春丛园』視察（徳島县）

11月26日 阿波舞会馆視察（徳島县）



11月27日 須磨学園高等学校訪問・交流（兵庫県）



11月27日 兵庫県立北摂三田高等学校訪問・交流（兵庫県）

11月27日 須磨学園高中访问・交流（兵庫県）

11月27日 兵庫県立北摂三田高中访问・交流（兵庫県）



11月27日 藍の館・藍染め体験（徳島県）



11月27日 徳島県立徳島北高等学校訪問・交流（徳島県）

11月27日 藍之館・藍染体験（徳島县）

11月27日 徳島县立徳島北高中访问・交流（徳島县）



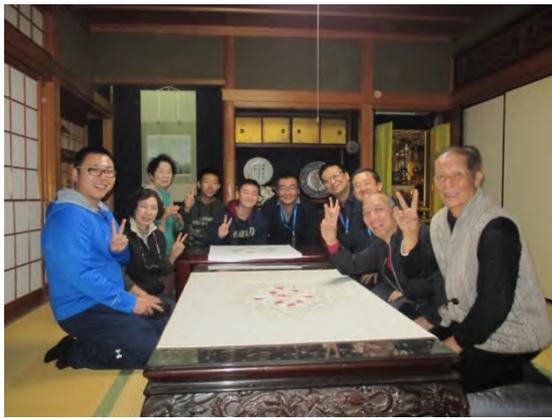
11月28日 ホームビジット（兵庫県）

11月28日 家庭訪問（兵庫県）



11月28日 橿原の郷視察（奈良県）

11月28日 橿原之郷視察（奈良県）



11月28日 農家民泊（奈良県）

11月28日 農家住宿（奈良県）



11月28日 ホームステイ（徳島県）

11月28日 家庭住宿（徳島県）



11月29日 カップヌードルミュージアム参観（神奈川県）

11月29日 方便面博物馆参观（神奈川県）



11月29日 卯三郎こけし こけし絵付け体験（群馬県）

11月29日 卯三郎木偶娃娃绘制体验(群馬县)



11月30日 横浜市立南高等学校訪問・交流(神奈川県)



11月30日 群馬県立利根実業高等学校訪問・交流(群馬県)

11月30日 横浜市立南高中访问・交流(神奈川県)

11月30日 群馬县立利根实业高中访问・交流(群馬县)



11月30日 奈良県立平城高等学校訪問・交流(奈良県)



11月30日 兵庫県立伊川谷高等学校訪問・交流(兵庫県)

11月30日 奈良县立平城高中访问・交流(奈良县)

11月30日 兵库县立伊川谷高中访问・交流(兵库县)



12月1日 明治大学訪問(東京都)



12月1日 歡送報告会(東京都)

12月1日 明治大学访问(東京都)

12月1日 欢送报告会(東京都)

4 参加者の感想（抜粋）

○今回の日本訪問は9日間という短い期間でしたが、収穫がとても大きかったです。一番印象に残ったのは日本人の丁寧さです。初日ホテルに到着した時に、私達がバスから降りる前に、運転手さんがもうすでに私達のスーツケースを綺麗に並べていました。バスを観察すると、全体が綺麗で、タイヤも反射するほどピカピカで驚きました。それから、カップヌードルミュージアムでチキンラーメンを作っていた時に、スタッフの方々は麺の量などに対して厳密にコントロールし、ちょっと多く入れても少なく入れてもだめでした。このことから日本の精密機器などの正確さ、人気の秘密を想像できます。日本人は完璧を追求することを習慣化し、仕事に対して油断を許さず、厳格な制度の下で詳細な計画を作ります。一番重要なのは最後まで徹底的に行うことです。

帰国したら、日本人の丁寧さ、完璧を追求する精神を周りの人々に伝えたいです。小さなことでも、きちんとやる習慣をつければ、きっと明るい未来が私達を待っているはずですよ。

○日本人は何をしてもきめ細かく、完璧さを追求します。礼儀正しく、よくお辞儀をしながら挨拶を交わします。道路も綺麗です。エレベーターに乗る時に最初に入った人は必ず開閉ボタンを押します。お店にはかわいい小物がたくさん並んでいます。各家庭は一平米の面積をも有効に利用します。小銭を入れる財布を別途に持っています。日本人は一分の時間、一平米の土地も無駄にせず、徹底的に有効に利用しています。

教育システムが進んでいます。科学館や博物館に入ってみると、6、7歳くらいの子供達が楽しそうに参加しています。小さい頃から科学に触れ、創造力を高め、いろいろなものを実際に作っています。東芝未来科学館では、飛行機や船、お家まで作ることができ、科学を通して想像力を高め、16歳である私もそれに驚きました。そして楽しく遊んでいました。カップヌードルミュージアムでは、実際にカップラーメンを作ることができ、制作能力が鍛えられます。子供達は小学校、中学校、高等学校に入っても、多彩な部活動に参加することができます。勉強熱心な学生でも一時間の趣味の時間を持つそうです。さらに驚いたのは、ごく普通のクラスでも、音楽の時間にベートーベンの曲の高低音を区別することができ、ハイレベルの合唱を披露していました。本当に驚きました。しかも学生達は五線譜を使っていました。普段プライドの高い私でも恥ずかしく感じました。日本人の学生は多くの科目から好きな授業を選ぶことができます。ホストファミリーのお父さんに日本では文系と理系を分けないのかと聞いたら、何十年前までは分けていたそうです。彼らは総合的な知識をたくさん身につけていると実感しました。そういう意味で中国との差が大きいです。

日本は美しい、でも完璧ではないと思います。私は一部しか覗いていません。日本は先端技術を持っています。素晴らしい教育システムも整え、国民の教養も高いです。しかし欠点もあります、完璧ではないところもあります。中日両国はもっと多くの交流をすべきです。私達はマスコミだけを通して日本を見てはいけません。積極的に交流をし、互いに理解し、さらに客観的な目で日本を知るべきだと思います。

○今回日本に来て、多くのことを学び、多くのことを感じました。今回のテーマは社会

福祉です。しあわせの村で聞いた話によると、大きい会社では体の不自由な人を2%以上雇う義務があるそうです。驚きました。しかし、中国ではそれは不可能です。これは社会制度や経済力に関わっています。私達高校生にできることはあまりないかもしれませんが。でも私の考え方は変わりました。私は中国の皆さんに伝えたいです。日本の福利厚生の良さ、そして皆さんの日本に対する偏見を改善させたいです。各施設での訪問では、日本人の美しい品格を感じました。人々は親切で友好的でした。私達を大歓迎してくれました。これは私達高校生が見習うべきところですが、日本人の秩序あるところも私達は一日でも早く学び、実践していくべきです。

私達高校生の力では中国全体に大きい影響を与えることができないかもしれませんが。しかし私達は周囲の人を変えることができます。自分から、家庭から始めればよいと思います。

中国の道路には信号が少ないですが、それでも信号のあるところでは交通ルールを守るべきです。他人が交通違反をしても自分は絶対にやってはいけません。自ら努力すれば、その気持ちが他人にも伝わり、社会も変わると思います。マナーを守ることは現代中国の大きな課題です。よくない環境に慣れたり、文句ばかりを言ったりするのではなく、一人一人自分から実践すべきだと思います。

中国全国民が行動し、日本に対する偏見をなくし、日本の素晴らしいところを見習い、自分の教養を高めてほしいです。これは今の中国で一番必要なことだと思います。

○ホームビジットの時、海辺へ行ったことが一番印象深かったです。ホストファミリーの弟さんは口数少ないですが、ずっと砂浜で走り回っていました。遊び終わって帰ろうとした時、貝殻とヒトデを持ってきてプレゼントしてくれました。私たちのためにずっといいプレゼントを探していました。忘れ物に気づいた時、ホストファミリーのお母さんは何の文句もなく、途中でリターンし、家まで戻って取りに行きました。日本人の顔に浮かんだ微笑は心からの喜びと相手に対する尊敬が感じられます。

中国に帰って、まず周りの人々に伝えたいのは日本の素顔です。日本国民は我々の想像と違い、優しくフレンドリー、いつも人の立場に立って考え、人に迷惑をかけたくないと考え、別に中国のことを嫌っていません。日本の学生たちは中国のことをそんなに良くわかっていないけれど、中国人が大好きなようです。次に伝えたいことは、日本は一衣帯水の隣国で、我々はもっと日本のことを理解すべきということです。日中両国の友好は両国の発展と進歩に繋がります。

以上が私の訪日感想です。今回の訪日プログラムに参加できたことをとても光栄に思います。主催者側のご尽力に対し感謝したいと思います。一番の収穫は日本に対する理解が深められたことです。

○須磨学園のプログラムがとても印象深かったです。本来、授業中のはずだった生徒たちが私たちのために列を作って笑顔で手を振りながら私たちを出迎えてくれました。歓迎会で素晴らしいパフォーマンス披露し、優秀な伝統文化を見せてくれました。書道のパフォーマンスで立派に書かれた中国側四つの学校名を見て感動を覚えました。生徒たちがみんな素朴で可愛いく、日本語で何を喋っているか分からないけれど、とても和やかでユーモアな雰囲気でした。茶道体験の時、何も知らない私にとっても親切にいろいろ

教えてくれました。英語でお互いの趣味や学校生活について話すことができました。時々身振り手振りを使ったり、紙に絵を描いたりすることでやっと交流できましたが、その過程がまたとても楽しかったです。連絡先を交換し、これからもネットでお互い交流し続けることを約束しました。友情には国境がありません。

帰国後必ず、自分で見たことを積極的に周りの人々に伝えたいと思います。これで日本に対する誤解が少しでも解消され、日本の青少年の友情が感じられたら嬉しいと思います。今回の訪日プログラムのおかげで視野を広げられ、日本の強いところをつくづく感じました。そして自分や周りの人々を励まし、新しいものを作る勇気が湧いてきました。優秀な外来文化をもっと積極的に吸収しようと思うようになりました。これから日本訪問に関する文章を書き、ネットで発信しようと思います。

○日本の地に着いたら、目に入るのはきちんと整備されたきれいな道路、夜になると窓越しに美しい夜景が映し出されました。喧噪で賑やかな都会で朝はカラスの鳴き声で目が覚めました。

いたるところに日本人の緻密さが見られます。プログラム詳細冊子に記載された時間は分単位まで、グループ分けで行動する時は必ず事前にきちんと人数が決められ、いつもぴったりでした。利用したどこのホテルも部屋の広さに関係なく、冷蔵庫が設置されています。買い物する時、レジの方が必ず笑顔で〇〇円お預かりしました、〇〇円のお返しですと丁寧に話してくれます。どれも小さなことですが、中国では見られない光景なので感心、感激です。

国民の素質を高めることは急務です。国に帰ってから、色んな方法で日本のことをみんなに伝えたいと思います。日本人の日常生活から国全体の状況まで詳しく紹介し、まず自分自身を高め、それから周りの人々にいい影響を与え、いつか徐々にその輪を広げ、国全体の国民素質が高められることを夢見ています。日本人はとても勉強に熱心な民族です。我々にとって謙虚に学ぶべきことがたくさんあります。日本のいいところを取り入れ、良くないところを捨て、お互いに交流と理解を深め進歩と発展を遂げたいと思います。

○今回の日本訪問で、日本の理解が深まりました。まず、毎日の集合・出発・各プログラムの参加などは事前に配布された日程表通りに段取りされていて、団に随行された先生から日本人は時間に厳しい事を学びました。次に、日本人は秩序をきちんと守っていました。目立ったのは、信号待ちの時に車の通行量に関わり無く、何時でも通行指標とされていました。印象深いのは、学校が清潔で整頓されていた事や、課外活動や専門課程が充実していた事です。日本の生徒は校舎に入る時には上履きに履き替えていましたが、これが学校の衛生を保つのに役立っていると思いましたし、日直の生徒や掃除のおばさんの仕事の負担も軽くなると思うので、中国の学校でもこのようにしてみたら良いと思いました。日本を訪問するまで、日本の学校には様々な部活があり、部活をやっている人は、勉強以外にも自分の趣味や興味を活かして長所にしているので、高校生活はとっても楽なのだと思っていました。しかし、日本の高校に来てみると、出会った高校生が宿題やテストなどで忙しく、中国とあまり変わりはないようでした。訪日期間中、通訳の先生は細かく指導してくださいましたし、日本側の関係者は何処でも温かく私達

を迎えてくれ、皆さんの優しさを感じました。そのため、記憶の中の美しく清潔な日本と温かく優しい日本人達の事を家族や友達に紹介して、日本の理解を深めたいと思います。

○今回の中国高校生代表として日本を訪問し、他人の見た物や他の人から聞いた彼らの考える日本ではなく、自分の耳で聞いたり、自分の目で見たりしました。見学したのは日本の先進技術を代表する東芝未来科学館で、私たちが体験をしたのはATC エイジレスセンターで、兵庫県立北摂三田高等学校と奈良県立平城高等学校では日本の高校生と1対1で交流しました。私たちは、高齢者施設で高齢者と一緒にゲームをして遊びました。東大寺や大阪城で日本の歴史に触れました。ホームステイでは受け入れ家庭に宿泊し、受け入れ家庭のおじいちゃんやおばあちゃんは特別な料理をごちそうしてくれて、着物も着せてくれました。今回のプログラムはどれも目に浮かぶ思い出深いものになりました。今回のプログラムのテーマは社会福祉で、草の根サッカーや橿原の郷などで、日本の社会福祉を少し理解しました。帰国したら、日本は福祉体制が整備されていることや、自分が見たり聞いたりしたことを家族や友人にSNSでお互いにシェアし、ネットや新聞などのメディアで更に多くの人たちに伝え、このように整備された社会福祉体制が中国でも普及するように祈っています。

○今回の訪問で最も印象深かったのは、奈良県立平城高等学校を訪問した時に先生が行ってくださった茶道の授業です。きちんと座る姿やお作法及び間の取り方や、お茶の飲み方の厳格さなど、全て日本人が伝統文化をしっかりと尊重しているのが、いたるところで分かりました。茶道は、中国から日本へ渡ったものであるということですが、中国が伝統文化に対する態度に足りない所があるという事ではないでしょうか。帰国してからは、報告会・ポスター・投稿やネットメディアなどを通じて、友人や家族親戚などにこのような伝統文化に対する態度を伝え、人々が伝統文化を重視するように努めたいと思います。

○今回の訪日で、私が直感的に感じたのは清潔感・整理整頓・人に優しい設計・規律正しさでした。例えばまっすぐで清潔な道路について言えば、道幅を問わずどの十字路にも信号があり、河川の橋や歩道橋にはいずれも名前がついていました。建築や商品の設計においては、対称形が広く用いられていて、日本大使館の会議室天井の灯光の配列も日本式エレベーターの内側も、左右対称になっていました。丈夫なウォシュレットなどに見られるように、日本の施設や生活用品は様々な角度から製品使用者一人一人の体験をもとに設計・建設されています。道の両側の湾曲した部分は障害者のために特別に設けられたバリアフリー施設なのです。また、私が使用している三菱のシャープペンシル「クルトガ」は、書く度に芯が回転して筆跡が太くなるのを防ぐようになっています。このような設計は中国人から見れば面倒であるようにも思われます。しかし製品の使用者の身になってみると、実際にそうした製品の利点を感じます、人間関係においては、日本は年功序列を重んじる国家です。印象深いのは、エレベーターから降りる人たちが、ドア際にいる年上の男性に会釈をし、その男性は降りる人のためにずっとボタンを押し続け、最後に降りて行ったことです。ホテルのフロントの女性は毎朝素敵な笑顔で私に

挨拶してくれましたが、これによって私は少なからず快適な気持ちになりました。爽やかな一日はここから始まっているのです。人と人との間の挨拶や様々な礼儀や各種の行事の際に定められた面倒な決まりごとについて、以前私は面倒で取るに足りないことと考えていましたが、実際に体験してみて、そうした面倒な決まりごとというのは、仕事の効率化や人間関係を円滑に進めるための有効な措置ではないかと思うに至りました。帰国後、私は様々な決まりごとを守り、これを提案し、周囲の人にもそうするべきだと伝えていこうと思います。

○日本に着いた最初の印象は、清潔で片付いており、ゴミ一つ落ちておらず、空気がきれいなことでした。このことから日本人は物事の細かいところまでおろそかにしない性格であることが分かりました。日本は面積が狭く人口密度が高いものの、どこを見ても秩序があり、人間関係も譲り合いの気持ちで成り立っているのです。

今回の訪問のテーマは社会福祉で、まず日本のグラスルーツサッカー推進部の方の講演を聞き、その後、春叢園を見学しました。日本の社会福祉には多くの一般人が関わっていますが、これは政府が音頭をとって行っているわけではありません。このため、このような仕組みは長い間かけて発展してゆく活力があり、小さな川の流に似ています。決して澱んだ水たまりからは生まれません。このため、中国の一般人ももっと多くの人が立ち上がり福祉施設に力を貸してほしいと思いました。そうすれば中国の制度も、さらに完璧なものへと変わっていくはずだと思っています。

また今回の日本訪問で私の日本に対する認識は変わりました。私は以前から日本に対して偏見を抱いていたわけではありません。それでも日本人は柔軟性に欠け、こだわりが強く冷たいのではないかと感じていました。しかし日本では皆、友好的で親切でした。ホストファミリーの一家は私たちに本当に親切にしてくれました。私たちに日本の文化について解説したり、茶道を体験させてくれたりしました。ホストファミリーもまた、中国についてある程度理解しており、車で移動する際、中国語放送を流してくれました。一緒に卓球するよう準備してあり、この日は楽しく過ごしました。

中国と日本がさらに交流を深めて欲しいと願っています。私たちが帰国したら見たこと聞いたことを伝えるつもりです。

○今回の訪問を通じて、以下の数点に非常に感慨を覚えました。

1. 仕事第一の精神。訪日日程の中で、どこに行っても、どの人に会っても、仕事中には、心の奥の仕事への誇りと愛着が、仕事の際の精神状態を通じて表われていると感じました。
2. 真面目で細やかで決まりを守ること。この点は、日本人が世界のどこに行っても変わらない共通の印象だと思います。道を横断する時・ホテルに宿泊した時の避難経路の確認・ほとんどの建物の入口にある傘袋・室内の物の置き方、禁煙の実施状況・バスにおける安全ベルト着用など、無数のもしくは一つ一つのこと全てからそれが感じられます。
3. 礼儀。日本に着いたばかりの頃は、なかなか慣れませんでした。挨拶用語などは、面倒と思えるレベルでした。しかし数日を過ごしてみて、自らお辞儀をして挨拶やお礼を言ってみると、自分自身が間違いなく楽しい気持ちになっていることに気付

きました。他人の身になって考えることによって、だんだんと自分も人に対して挨拶の言葉を発するようになりました。このようにして、人と人は交流を深め、さらに仲良くなっていくように思えました。

4. 人々の公益に対する思い入れの深さ。私たちに付き添いもてなしてくれたスタッフの中で、多くの方が公益事業に身を投じ、私心なく真面目に献身的に仕事をしていることに、大変感銘を受けました。

感銘を受けたことは大変多いのですが、以上の数点が突出しているように思いました。